

放射線 たより

＊Radiation News＊

Vol.6, 2022(Oct)



地域の皆さまへ ～「放射線たより ＊Radiation News＊」をお届けします！～

経皮的カテーテル心筋焼灼術

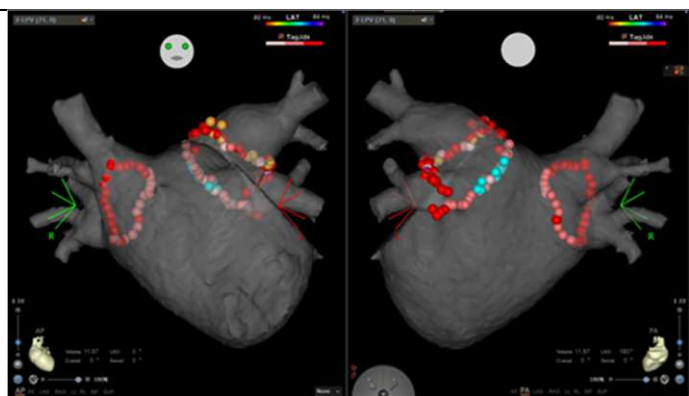
経皮的カテーテル心筋焼灼術は不整脈に対する治療方法のひとつです。不整脈は大きく分けると2種類の原因によって引き起こされます。

一つ目は、心臓の筋肉の中に異常な電気回路があり、その回路を電気が回ることによるもの、二つ目は心臓の一部から異常な電気興奮が出ているものです。

アブレーション治療とは、専用のカテーテルを不整脈の原因となる異常な回路や興奮を発生させている部位まで進め、カテーテルの先から高周波電流を流し、熱を加えて心臓の筋肉をアブレーション（焼灼）する治療法です。

心臓の筋肉を加熱することにより、筋肉の中のタンパク質が凝固し電気を伝えることができなくなるため、不整脈の発生を抑えられます。治療を行った時にできる創が小さいので、体への負担が比較的少なく済むのが特徴です。

おおよその手術時間は2～3時間ですが、複数箇所治療が必要な場合やその他の理由により、もう少し長い時間がかかることもあります。術中は痛みがないように鎮痛剤や鎮静剤を状況に応じて使用します。



心房細動アブレーション時の焼灼部位(色のついた点)

●アブレーション治療の対象となる不整脈●

頻脈性不整脈	心房細動、心房頻拍、心房粗動、 発作性上室性頻拍、WPW 症候群、 心室頻拍
期外収縮	心房性期外収縮、心室性期外収縮

上記疾患をお持ちの患者様や疑われる患者様がいらっしゃいましたら、当院循環器内科までご紹介下さい。

(窓口：地域医療連携室)

監修：循環器内科 玉置俊介副部長

地域連携受付

- 電話 072-469-7835 (平日 9:00 から 18:00 まで 土曜日 9:00 から 12:00 まで)
 - FAX 072-469-7931 (画像診断依頼用紙・保険情報 FAX用紙をご記入の上 FAX をお願いします)
- ご不明点や診療の予約は地域医療連携室に電話で問い合わせいただくか、もしくは当院 HP をご覧下さい

心臓用血管造影装置のご紹介

◆Azurion7 B12/12(PHILIPS 社製)◆

2020年8月から稼働しているバイプレーン装置で、同時に2方向から透視・撮影をすることができます。

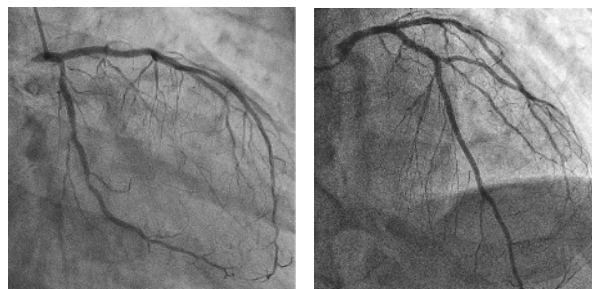
正面・側面ともに30×30cmの平面検出器(FPD)を搭載しており、X線画像処理技術 ClarityIQ を活用した高品質な画像処理を行うことによって、低線量のX線照射の画像であっても優れた画像を提供します。当院の実験によると、前装置と比べても約60%の線量を低減しても同等の画像を得ることができ、被ばく低減が期待できます。

緊急検査に24時間対応しており、昨年度はCAG 749件、PCI 348件の実績があります。

また、この装置は心臓用として使用していますが脳血管検査にも対応できるため、脳血管カテーテル検査のバックアップ用としても使用しています。



Azurion 7 B12/12



心臓血管造影画像

【シリーズ より安全な造影検査を目指して！】

その5：ヨード造影剤の副作用について

当院では造影剤を使用して検査を行う場合、必ず事前に腎機能を確認して検査を行っております。腎機能が悪い患者様に造影剤を使用すると造影剤腎症(contrast induced nephropathy: CIN)や腎性全身性繊維症を誘発する場合があります。

CINとはヨード造影剤による腎障害のことで、造影後に腎機能低下がみられ、造影剤以外の原因(コレストロール塞栓など)が除外される場合に診断されます。一般的に腎機能の低下は可逆的ですが、場合によっては腎機能低下が進行し、人工透析が必要になることがあります。

当院では腎機能評価としてeGFR値を用いて確認しており、eGFR値が30[ml/min/1.73m²]以下の場合、CTやMRIの造影検査は行っていません。

eGFR 区分(ml/min/1.73m ²)	
正常または高値	≥90
正常または軽度低下	60～89
軽度-中程度低下	45～59
中程度-高度低下	30～44
高度低下	15～29
末期腎不全	<15

*1 より一部抜粋

造影検査を依頼される場合、事前の造影検査同意書の取得と採血データ(eGFR値)の提示をよろしくお願いします。

*1：腎障害疾患におけるヨード造影剤使用に関するガイドライン 2018

★★★★★ 編集後記 ★★★★★

心臓カテーテル検査は、循環器内科医師を中心に、多職種が連携して施行されます。当施設では、緊急症例に対しても24時間体制で、いつでも迅速に対応可能です。今後も地域の急性期医療に貢献できるよう取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。(田原)

放射線部たより (Radiation News)

放射線科・放射線治療科・診療支援局放射線部門
 発行責任者：中田耕平 (放射線センター センター長)
 編集責任者：中前光弘 (放射線センター 副センター長)
 編集委員：田原大世、池本達彦、梅木拓哉、
 今西麻梨子、高橋美帆、奥田響生

【 Vol.6 発行日：2022年10月1日 】